



短頭種気道症候群手術

対象 短頭種の犬・猫	手術時間 60～120 分	入院 1～2 泊	麻酔 全身麻酔
---------------	------------------	-------------	------------

■ どんな手術？

フレンチブルドッグ・パグ・ボストンテリア・シーズー・ペルシャ猫などの短頭種に生じる呼吸障害を、外科的に改善する手術です。狭い鼻の穴（鼻孔狭窄）・長い軟口蓋・狭い鼻咽腔といった複数の構造的な問題を一度に修正します。大切なのは「症状が出てから」ではなく「症状が出る前に対処する」ことです。気道の負担が積み重なる前に整えておくことで、生涯の呼吸の質を守れます。避妊・去勢手術と同じ若齢期（2歳まで）に、予防的にあわせて行うことを特にお勧めします。

■ この手術が必要なとき

- ・避妊・去勢手術と同時に、若齢期（2歳まで）の予防的な実施（最もお勧め）
- ・ブーブーという異常な呼吸音がある
- ・運動・興奮のあとに呼吸が苦しそう
- ・睡眠中の強いいびき・無呼吸がある
- ・口を開けて苦しそうに呼吸する
- ・熱中症を繰り返す（放熱がうまくできない）

■ 手術の流れ

- ① 全身麻酔をかけます（気道管理に特に注意します）
- ② 鼻孔拡大術で、狭い鼻の穴を拡げます
- ③ 軟口蓋切除術で、長い軟口蓋を適正な長さに短縮します
- ④ 必要に応じて、反転した喉頭小嚢を切除します
- ⑤ 術後は気道の確保を最優先に回復を管理します

■ 麻酔について

全身麻酔で行います。手術前に血液検査などで全身状態を確認し、麻酔のリスクを評価したうえで実施します。手術中はモニターで呼吸と循環を継続的に管理します。短頭種は気道が狭く麻酔のリスクが高いため、気道の確保と覚醒時の管理に特に注意して行います。

■ 入院・退院の目安

術後 1～2 泊が目安です。麻酔覚醒時から 24 時間は気道を集中的にモニタリングします。

■ 術後のケア

- ・術後 24 時間は気道のモニタリングを最優先に行います
- ・興奮・運動は 2～4 週間控えます
- ・夏季は体温管理に特に注意します
- ・術後数日は少量のミルクや流動食から始めます

■ 起こりうるリスク・合併症

- ・術後の気道閉塞（術後管理が最も重要）
- ・出血（鼻・口の中）
- ・喉頭の浮腫
- ・術後の嚥下障害（まれ）
- ・麻酔リスク（短頭種では特に高くなります）

■ よくある質問

Q. いつ手術するのがベストですか？

A. 症状が出る前、理想的には若齢期（6 か月～2 歳）の予防的な手術が最も効果的です。避妊・去勢と同時に行うと、麻酔の回数も抑えられます。症状が重くなるほど手術の効果は限定的になります。

Q. 手術後は呼吸が楽になりますか？

A. ほとんどの症例で呼吸音の改善・運動耐性の向上が見られます。生活の質が大きく向上するケースも多くあります。

Q. 麻酔のリスクはどのくらいですか？

A. 短頭種は通常の犬より麻酔リスクが高めですが、経験を積んだ術者と適切な機器があれば安全に対応できます。

■ なつ動物病院での対応について

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください